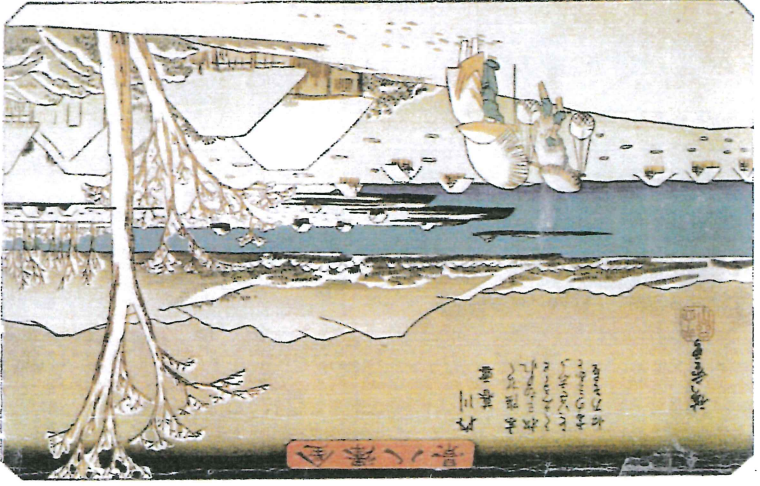


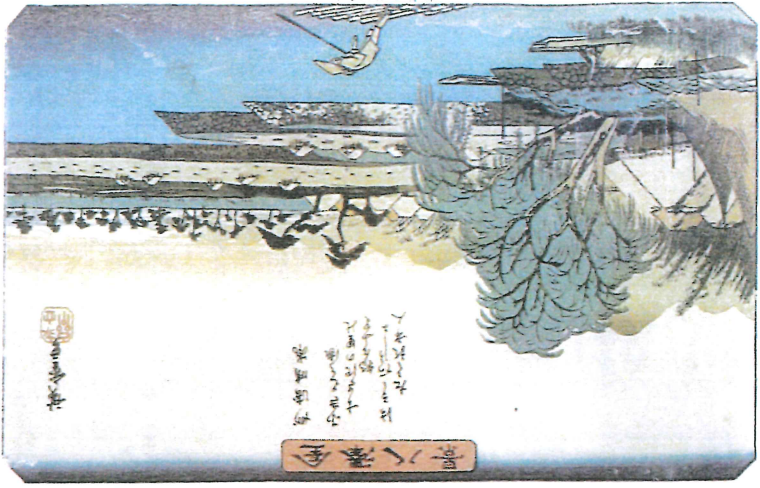
野島夕照



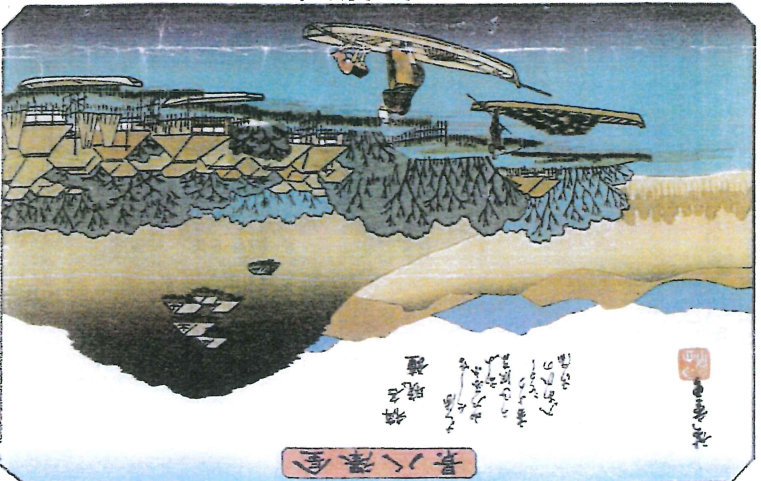
内川暮雪



平瀨落雁



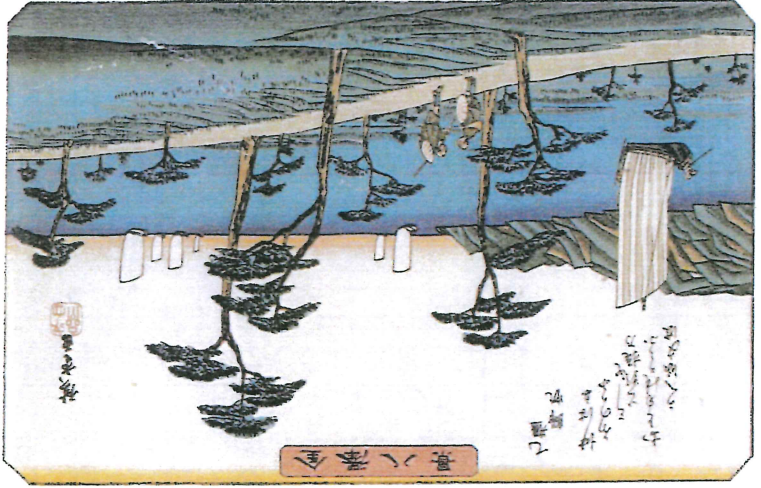
州崎晴嵐



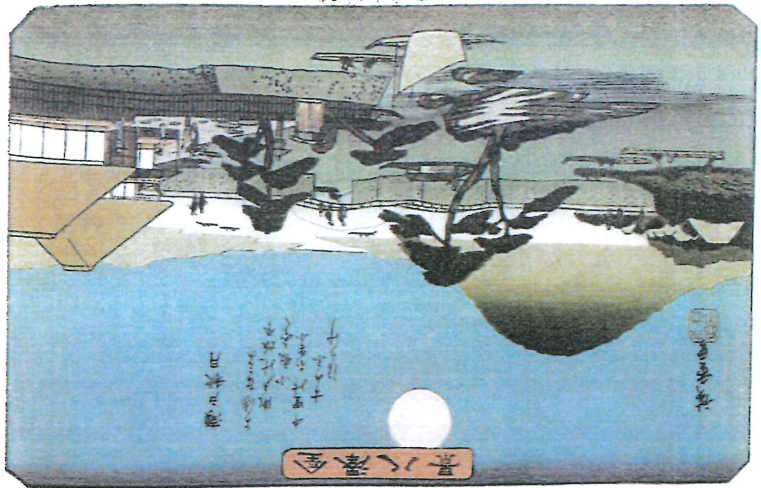
祿名晚鐘



小泉夜雨



乙鱸帰帆



瀬戸秋月



☆瀬戸神社

この地は平瀨湾と内海の入
口に辺り、潮の干満によって急
流が生ずる“瀬戸”があり、古
来、海神を祀った祠がありまし
た。源頼朝は伊豆で孝兵した時
に加護をもたらした伊豆三島明神をこの地に勧請したのが
起源です。徳川家康も奥州への戦勝祈願にこを訪れ、裏
山から景色を絶賛した家康の意向を汲んで、後にその裏
山に東照宮とその別当の圓通寺が造られた。

☆琵琶島弁財天

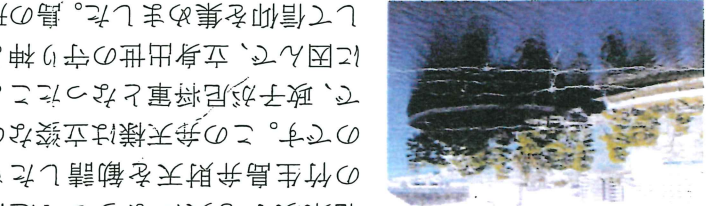
金沢文庫に収蔵されている古
文書に祿名寺の二代長老の
劔阿が書いた書状が残ってい
る。それによると、「祿名寺金
堂の屋根を葺くための檜皮を



☆金沢八幡神社

います。(別名ボクン寺)

その後、戦乱により罹災、室町時代の1499年に、当時の
住職法印融辨が兼務していた寺前にあった光徳寺と合併
し、当地に移築、知足山龍華寺になったといわれる。800
年以上の歴史を持つお寺だけに貴重な宝物が所蔵されて



が琵琶に似ていて、昔の八景の面影を残す場所でもありま
す。

☆泥亀新田と矩小島水門跡

江戸の湯島聖堂の儒官であ
った永島祐伯(号は泥亀)が
野島に移って新田開発を始
めたのが寛文8年(1668)で
した。歴代の当主が約200
年にわたって、広大な入江の
埋立による新田開発に取組
んで7代目忠篤(号は亀巢)の時に、ようやく新田は完成し、
初代の号をもって「泥亀新田」と名付けた。矩小島の由来
は「照手姫と小栗判官」の伝承によると、姫がこの島で松
葉いぶしに遇ったと云うことから、この土地の人が哀れみ
「矩小島」と呼ぶようになったそうです。



て真言律宗の寺となった。実時の孫・貞顕の時代には三
重塔を含む七堂伽藍を完備した大寺院として全盛期を迎
え(1323年)、金沢北条氏一族の菩提寺として発展した。
金堂前の阿字ヶ池を中心とする浄土式庭園で四季折々の
景観が美しい。この本尊は弥勒菩薩で宋風彫刻の典型的な
品で国の重要文化財です。

☆金沢文庫

北条実時は学問好きの政治家で鎌倉を中心に金沢家に必
要な典籍や記録文書を集め、収集した和漢の書を保管す
る書庫を金沢郷に創設。文庫は実時の蔵書を母体に拡充
され、金沢貞顕が六波羅探題に任じられ京都へ赴任する
と、公家社会と接する必要もあり収集する文献の分野も
広がり、貞顕は自らも写本を作成し「善本」の収集に努
めた。然し幕府滅亡によって文庫は祿名寺の塔頭に移さ
れ管理が不備になり、蔵書も多くが後北条氏、徳川家康、
前田綱紀らによって持ち出された。明治になって、伊藤
博文らの尽力により文庫が復興され、旧蔵書の回収も進
められた。明治30年(1897)祿名寺大法院跡に石倉の書
庫が再建されたが金沢文庫は関東大震災で失われ、昭和
5年(1951)に当時金沢に別荘を持っていた「博文館」の
社長で貴族院議員であった大橋新太郎氏の努力で県知事
を動かし、県と自費と半々で、最初の県立図書館として
復興した。昭和30年(1955)に登録博物館となり、平成
2年(1990)に新築され、現在は歴史博物館となっている。

☆明治憲法草創の碑

この急流の瀬戸にやと橋が架けられたのは金沢北条氏の
三代目貞顕の時で1305年頃です。これで鎌倉と六浦の
港と町屋を結ぶ金沢街道(塩の道)が開通したのです。

☆瀧戸橋

伊藤博文は金子堅太郎、伊東巳代治、井
上毅らと共に、料亭「東屋」に集まり、
明治憲法の立案の構想を練った。ある夜、
東屋に盗賊が入り機密書類が盗まれ、幸
い翌日発見され無事だったが安全のた
めに会議の場所を夏島の伊藤の別荘に
移し、この「夏島草案」をもとに明治22年に「大日本帝
国憲法」が發布された。

☆龍華寺

真言宗御室派、本尊は大日如来。
創建は頼朝が瀬戸神社の別当寺
として六浦にたてた「淨願寺」
が始まりといわれる。(1189年)

